

信州大学 - Curtin University of Technology

大学間学術交流協定に基づく

平成 16 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学 - 2004 - Curtin



平成 16 年 10 月 1 日

信州大学医学部保健学科 / 信州大学医療技術短期大学部

【目次】

第4回海外短期留学を終えて - 学生に夢と勇気を -	2
学術交流の概要	
1. 学術交流協定及び学生の交流に関する協定締結の経緯と交流実績	3
2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新	4
カ - ティン工科大学の概要	5
平成16年度夏期海外単位認定プログラム	
1. はじめに	6
2. 夏期海外単位認定プログラム	
3. 研修期間	
4. 研修場所	
5. 研修プログラムの内容	7
6. 参加人数	8
7. 指導教官	
8. 研修費用	9
9. 研修日程	
10. 研修プログラム一覧	10
11. プログラムに対する学生アンケート	12
12. 学生研修レポート	14
13. 写真集	19
(編集後記)	



(表紙の写真は、研修1日目の Curtin 工科大学でのキャンパスツアー)

1. 第4回海外短期留学を終えて

- 学生に夢と勇気を -

1999年4月にはじめて信州大学と西オーストラリアのカーティン工科大学との間に学術交流協定が結ばれていらい5年が過ぎ、今年3月にあらためて学術交流協定と教員・学生の交流協定が調印されました。この5年間に、2000年9月の表敬訪問のさいに調査した資料を基に計画された海外短期留学プログラムも今年で4回目となりました。今年度も当初からの基本線である customized program を守りながら、一年ごとに前年の evaluation をし、改良、工夫を重ねて3週間のプログラムを作り上げました。カーティン側のていねいな対応のおかげで、こちらの大部分の希望がかない理想に近いものができあがりしました。

例年になく荒れ模様の天気を迎えられましたが、学生たちは大変張り切ってベントレーの広大なキャンパスで真剣に授業に取り組みました。学生に対するこちらの先生方の評判も、優秀で元気があって礼儀正しいと、上々でした。たしかに、松本のキャンパスにいるときとは違った目の輝きがあり、ときには8時台からある授業に、朝早くからバスに乗って喜々としてやってくる彼らにわれわれも目を見張る思いでした。この経験がこれからの学生たちの学問や人生に向かうスタンスにかならずよい影響を与えることを確信できました。

大学での初日に二人の日本人の学生がわれわれを訪ねてくれました。ひとりには短大の理学療法学科を卒業した吉川君でいま大学院へのブリッジコースにいます。彼の在学中にはまだこの短期留学のプログラムはありませんでしたが、その後の信大とカーティンとの交流をもとにこの大学で学ぶ道を切り開きたいと希望しています。もうひとりには表敬訪問に参加していた看護学科の小沢さんで、看護学部大学院を目指して今年の4月にパスにきたばかりで、カーティンの研修コースで英語の猛勉強中だそうです。彼女はこの大学を訪れたとき、ぜひここで学んでみたいと思い、卒業後臨床で経験を積み、お金も貯めてやってきたそうです。二人とも困難を克服してなんとかここでよい成果をあげてくれると期待しています。

この短期留学は、学生に将来の人生においてより広い世界で学び、活躍するという夢と希望と実現する勇気を与えたいというのが主な目的です。この意味で上の2人の学生に会えたことは大きな喜びでした。保健学科も完成年度を迎え大学院ができれば、研究交流や学生の単位互換を実施していくことも大切です。これからもこのプログラムに参加した学生たちが大きく世界に羽ばたいてくれることを期待して、よりいっそう充実した内容の海外研修にすべく努力したいと思います。最後に、このプログラム実施のために、大学から学長裁量経費をいただいたこと、そして、同窓会からご援助いただいたことをここに明記して感謝いたします。また、長い時間かけて万全の準備をし、学生の指導・援助にあたられた先生方と後方支援をしていただいた事務方に心からお礼申し上げます。

平成16年10月1日

保健学科長・医療短期大学部長
成沢 和子

． 学術交流の概要

1. 学術交流協定及び学生の交流に関する協定締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授（現在；郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長）と、カーティン工科大学健康科学部ジョ-ン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まりました。
- 2) 1997年3月、藤原孝之教授、楊箬隆哉教授（現在；長野県立看護大学教授）およびゴウ・アー・チェン助手（現在；本学助教授）の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として、カーティン工科大学を訪問しました。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意しました。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学教員が信州大学との間の大学間学術交流に興味を示していることがわかりました。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之教授、楊箬隆哉教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョ-ン・コール、国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談しました。両大学の資料を交換し検討しました結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意しました。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かりました。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結しました。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演者として来日した、ジョ-ン・コール教授が信州大学を表敬訪問し、特別講義を行いました。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結しました。
- 8) 2000年9月 宮坂敏夫部長以下教官・学生20名がカーティンを表敬訪問。各学局の国際交流担当者等との話し合いをし、次年度からの短期留学の可能性をさぐりました。帰国後、プログラムの立ち上げのため部長のもとに5名からなるチームを置き、このチームにより検討を重ね、実施プランを作成しました。
- 9) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生31名がカーティン工科大学にて第1回夏期留学・単位取得プログラムに参加しました。
- 10) 2002年（第2回）は27名、2003年（第3回）は24名^{*1}、2004年（第4回）は20名^{*2}が夏期留学・単位取得プログラムに参加しました。

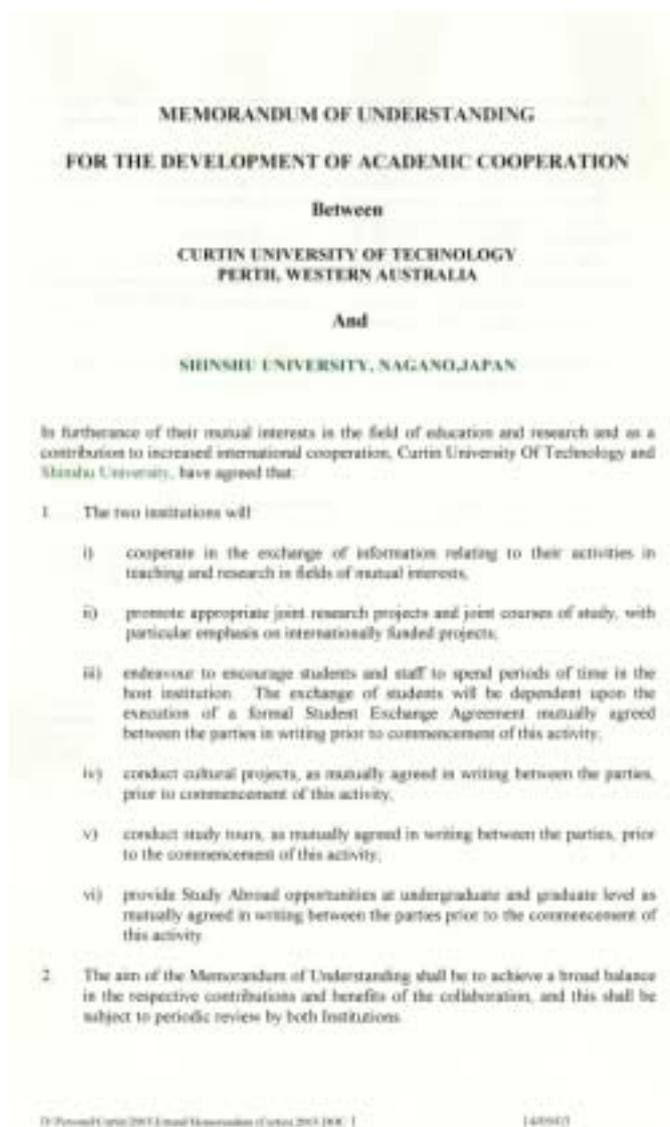
2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定および2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新されました。有効期間は2004年4月から2009年3月の5年間で、両校の交流は一層親密に深められることになりました。

下記に、学術交流協定および学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書のタイトルページを示しました。

学術交流協定 (2004.4～2009.3)

教員と学生の交流に関する協定書(2004.4～2009.3)



カ - ティン工科大学の概要

1. 設立

1) 1967年 The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設される。

2) 1987年：Curtin University of Technology カーティン工科大学)となる。

* カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、アメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も多く在学している。

2. 位置

1) 西オーストラリア州唯一の工科大学（国立）

2) メイキャンパスはパース（Perth：西オーストラリア州の州都。人口約 120 万）の郊外ベントレー（Bentley）、中心部より 10 キロ南東 の位置（海岸まで車で 20 分）に立地し、他に 3 キャンパス（Kalgoorlie, Muresk, Miri）を有している。

Address	: Kent Street, Bentley, Western Australia, 6102 AUSTRALIA
Tel	: +61-9351-3618
HP-address	: http://www.curtin.edu.au/

3. 学部等

1) 学部（6学部）：健康科学部（8学科 10施設）、経営学部（6学科 10施設）、人文学部（5学科 10施設）、理工学部（12学科 21施設）、地質学部（2学科 12施設）、農学部（3施設）

2) 大学院：経営学（1専攻）、健康科学（8専攻）、人文科学（9専攻）、理工学（14専攻）、農学（1専攻）、地質学（1専攻）

学社、修士、博士課程：合計 365 コース

4. 学生数および教職員数

1) 学生数： 34,000 人（留学生数： 115ヶ国、5,800人）

2) 教員数： 1,200 人

3) 職員数： 1,600 人

・平成16年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間の学術交流協定にもとづき、平成16年度夏期海外単位認定プログラムが平成16年8月21日から9月11日の約3週間にわたり、カーティン工科大学およびパース市内およびパース市周辺にあるカーティン工科大学の関連施設および関連病院で実施されました。本年の認定プログラムに信州大学医学部保健学科と信州大学医療技術短期大学部（専攻科助産学特別専攻）の学生20名が参加しました。

カーティン工科大学での認定プログラムの実施にあたり、5月から7月にかけて3回、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修講義資料の配布と予備学習の説明が行われました。

2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的：他文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定：参加コースに応じて本学の単位として認定する。単位認定には、カーティン工科大学での全てのプログラムに参加することと、研修レポートの提出が必須である。

【認定予定単位】

- (1) 保健学科 : 国際医療協力論（単位認定教員：看護学専攻助教授 柳澤理子）
- (2) 専攻科助産学特別専攻 : 原書抄読（単位認定教員：専攻科教授<併任> 坂口けさみ）

3. 研修期間

研修期間：平成16年8月21日（土）～9月11日（土）、22日間

4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス； カーティン工科大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設/演習場所:
 - (1) Nursing / Midwifery (看護学/助産学特別専攻)

Royal Flying Doctors Service of Australia, Jandakot Airport

Quadriplegic Center, Perth

Craigwood Nursing Home, Perth

PMH, Paediatric Hospital, Perth

Rowethorpe Aged Care Facility, Hill View Terrace, Bentley

(2) **Biomedical Sciences (検査技術科学)**

Royal Flying Doctors Service of Australia , Jandakot Airport
General Pathology Laboratories, Fremantle
Australian Red Cross Blood Service, Perth
Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine, Perth
ILC: The Niche, Independent Living Center, Perth
PMH, Paediatric Hospital, Perth
Laboratory practice (Hematology): Curtin Uni. Bldg. 308

(3) **Physiotherapy (理学療法)**

Royal Flying Doctors Service of Australia, Jandakot Airport
Fremantle Hospital, Fremantle
Rowethorpe Aged Care Facility
ILC: The Niche, Independent Living Center, Perth
PMH, Paediatric Hospital, Perth

5. カーティン工科大学研修プログラムの内容

1) **第 1 週 ; Orientation & English language class (DOLIE*)**

- ・ カーティン工科大学および DOLIE のオリエンテーション
- ・ 英語学力の診断試験
- ・ DOLIE による英語および英会話の授業(English class)
- ・ 保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業 (Hospital communication for health professionals)
- ・ 各専攻別にカーティン工科大学の専門施設、研究室、実験施設を見学
(* DOLIE : Department of Languages & Intercultural Education)

2) **第 2 週 ; Lectures**

- ・ ヘルスケアに関する専門領域の講義 (Combined lectures)
コミュニティ・ヘルスケア (Community health care)
オーストラリアのヘルスケアシステム (Australian health care system)
保健科学における倫理と不正行為および盗用に対する注意点 (Professional ethics, fraud and plagiarism in health science)
ヘルスケアの専門職(Health care careers: Professional structures in Australia)
- ・ 保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業
- ・ フライング・ドクタ - 施設の見学 (Royal Flying Doctors Service)
- ・ MRSA test を受ける (病院見学のため)

2) 第3週 ; Tutorial, Practice , Clinical visits & Graduation ceremony

- ・ 専攻別に専門領域の授業、施設見学、実習、討論

【Nursing / Midwifery】

専門領域講義：クリティカル・ケア、小児看護、老年看護/老人医学

(Critical Care, Paediatrics, Aged care / Geriatrics)

施設訪問〔p.6 ; 4、2〕(1)、見学施設/演習場所を参照〕

講義：保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業

(Hospital communication for health professionals)

【Biomedical Sciences】

実習：血液学実習 (Hematology); 現地の実習生に混じっての実習

施設訪問〔p.7 ; 4、2〕 (2)、見学施設/演習場所を参照〕

講義：保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業

(Hospital communication for health professionals)

【Physiotherapy】

専門領域講義、実習：神経科学、解剖学

(Neuroscience, PT practice, Neuroscience & women's health practical session, Anatomy)

施設訪問〔p.7 ; 4、2〕 (3)、見学施設/演習場所を参照〕

講義：保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業

(Hospital communication for health professionals)

- ・ プログラム修了証書授与式と学生のスピーチ

(Graduation ceremony & English speech)

6. 参加人数

1) 看護学専攻	:	8名(1年生4名、2年生4名)
2) 検査技術科学専攻	:	4名(2年生4名)
3) 理学療法学専攻	:	6名(1年生4名、2年生2名)
4) 専攻科助産学特別専攻	:	2名

合計 20名

7. 指導教員

成沢和子学科長，カーティン大プログラム担当教員（大平雅美 教授、Goh Ah Cheng 助教授、日高宏哉 助教授、柳澤理子助教授、畔上真子 助手）

（成沢学科長は1週間、大平、Goh、日高、柳澤教員は3週間の現地指導）

8. 研修費用

平成 16 年度夏期海外単位認定プログラム研修参加費用：学生一人 35 万円

【内訳】

・ 往復航空運賃（空港利用税、Visa 取得費を含む）	148,400 円
・ 貸しきりバス（信大 成田空港）	000 円
・ 特別プログラム授業料	円
英語クラス，保健学共通講義，専門別（看護、検査技術、理学療法）講義・実習， 施設見学（含む、移動費用、指導支援費用）	
・ 滞在費（3 週間；ホームステイ、食事込）	40,800 円
・ 指導料、その他諸経費（指導教員 2 名の航空運賃、バス運賃、宿泊費の一部を含む）	32,000 円
計	

- ・ 上記以外の指導教員の航空運賃，バス運賃、宿泊費は学長裁量経費および同窓会から計上された。
- ・ 成沢和子学科長は、1 週間の研修出張。

9. 研修日程

8 月 21 日午前 11 時に信州大学北門よりバスで出発し東京成田空港に午後 5 時 30 分到着した。オーストラリア・カンタス航空 QF70 便で午後 8 時 55 分に成田空港を出発した。

8 月 22 日午前 6 時に西オーストラリア州・パース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港口ビーで行なわれた。その後午前 8 時までにはホームステイ先の家族（ホストファミリー）の出迎えがあり、各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから、ホームステイ先での生活の規則、通学経路の案内（ホームステイ先は大学から徒歩 15 分の所からバスを乗り継ぎ約 1 時間かかる所までいろいろある）、周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。

8 月 23 日カーティン工科大学にてミーティング、オリエンテーション、英語学力診断試験、キャンパスツアー、パース市内バスツアーが行なわれた。

8 月 24 日～9 月 9 日：英語および英会話の授業、保健医療現場でのコミュニケーションに用いられる英語および英会話の授業、ヘルスケアに関する授業、実習、施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細は、p.10 に示した。

9 月 10 日午後 10 時 30 分；Farewell Lunch, Graduation Ceremony：修了証書の授与式が行なわれ、学生ひとりずつが英語で挨拶をした。午後 3 時に学生はホームステイ先に帰宅し、午後 7 時 30 分までにホストファミリーに送られてパース空港に集合し、午後 10 時 45 分 QF79 便にてパース空港を出発した。

9 月 11 日、午前 9 時 30 分東京成田空港に到着した。バスにて松本に帰信し、信州大学北門に午後 4 時 00 分到着した。

10. 研修プログラム一覧 (August 21 to September 11, 2004)

First day program (21 August)

06.05	Arrive at Perth International Airport Short -homestay orientation talk
08.00	Meet homestay family and be transported to homestay, Free time with host family

Week One (23 August to 27 August, 2004)

B-number : Building number

Time	Monday 23 August	Tuesday 24 August	Wednesday 25 August	Thursday 26 August	Friday 27 August
9.00 10.30	Welcome and Orientation Curtin Uni. B-104 (Caryn Nery, Customised Program Course Coordinator, DOLIE)	English language class B-573 Mark Harrington	English language class B-573 Linda H	English language class B-573 Mark Harrington	English language class B-573 Caryn Nery
	<i>Morning Tea</i>	<i>Break</i>	<i>Break</i>	<i>Break</i>	<i>Break</i>
11.00 12.00	Campus tour	English language class B-573 Mark Harrington	English language class B-573 Linda H	Tour of Nursing, Physio and Biomed. Schools	English language class B-573 Caryn Nery
	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>	<i>Lunch Break</i>
13:00 15.00	Bus tour of Perth	Hospital communication for health professionals B-574, Mark H	Hospital communication for health professionals B-574, Linda H	Hospital communication for health professionals B-574, Mark Harrington	Free time

Week Two (30 August to 3 September, 2004)

Time	Monday 30 August	Tuesday 31 August	Wednesday 1 September	Thursday 2 September	Friday 3 September
AM	10:00-12:00 B-400.305 <i>Community Health Care</i> Saras Henderson	9.30-10.00 B-405.214 Morning tea with School of Nursing 10.00-12.00 B-405.214 <i>The Australian Health Care System</i> Pam Roberts, Director International Programs	10:00-12:00 B-405.305 <i>Professional Ethics, Fraud and Plagiarism in the Health Sciences</i> Jeff Jago	10:00-12:00 B-405.214 <i>Health Care Careers: Professional Structures in Australia</i> Louise Horgan	Free time Tour to the Caversham Wildlife Park
PM	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Linda H	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Mark Harrington MRSA screening	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Linda H	12.30-15.00 Visit to Royal Flying Doctors Service Jandakot Airport	

Week Three (6 September to 10 September, 2004)

Nursing and Midwifery (Week Three)

<i>Time</i>	<i>Monday 6 September</i>	<i>Tuesday 7 September</i>	<i>Wednesday 8 September</i>	<i>Thursday 9 September</i>	<i>Friday 10 September</i>
<i>AM</i>	10:00-12:00 B-405.214 <i>Critical Care</i> Alan Tulloch	10:00-12:00 B-405.214 <i>Paediatrics</i> Louise Horgan	9:00-12:00 Visit to Rowethorpe Hill View Terrace, Bentley Vanessa Campbell David Emery	10:00-12:00 B-405.213 Aged care/ Geriatrics Angelica Orb	10.30-12:30 Course Evaluations Graduation Ceremony
<i>PM</i>	13:00-15:00 Visit to Quadriplegic Center	13:00-15:00 Visit to Craigwood Nursing Home	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Linda H	13:00-15:00 Visit to PMH, Paediatric Hospital	12:30 –15:00 Lunch with staff of Curtin Uni. Curtin Club

Biomedical Science (Week three)

<i>Time</i>	<i>Monday 6 September</i>	<i>Tuesday 7 September</i>	<i>Wednesday 8 September</i>	<i>Thursday 9 September</i>	<i>Friday 10 September</i>
<i>AM</i>	10:00-12:00 Visit to General Pathology Laboratories Jeff Jago	10:00-13:00 Laboratory practice Hematology Jeff Jago	8.30-10.30 Visit to the Red Cross 10.30-12.30 Visit to Royal Perth Hospital, Clinical Laboratories	9:00-12:00 Visit to The Niche Independent Living Center of WA Sacha Penrose	10.30-12.30 Course Evaluations Graduation Ceremony
<i>PM</i>	13:00-15:00 Visit to General Pathology Laboratories Jeff Jago	13:00-17:00 Laboratory practice Hematology Jeff Jago	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Linda H	13:00-15:00 Visit to PMH, Paediatric Hospital Triston Hunter	12:30 –15:00 Lunch with staff of Curtin Uni. Curtin Club

Physiotherapy (Week three)

<i>Time</i>	<i>Monday 6 September</i>	<i>Tuesday 7 September</i>	<i>Wednesday 8 September</i>	<i>Thursday 9 September</i>	<i>Friday 10 September</i>
<i>AM</i>	8:00-10:00 B-210:102 Norm Dufty Lecture Theatre Neuroscience 351 lecture 10:00-12:00 B-401:002 Hollis Lecture Theatre PT Practice 352 Master Class	10:00-12:00 B-44.117 <i>Anatomy</i> <i>Practical session</i> John Owens	9:00-12:00 B-404:109 Visit to Rowethorpe Hill View Terrace, Bentley Vanessa Campbell David Emery	9:00-12:00 Visit to The Niche Independent Living Center of WA Sacha Penrose	10.30-12.30 Course Evaluations Graduation Ceremony
<i>PM</i>	13:00-15:00 Group A ;B-408:2503 <i>Neuroscience 351</i> <i>practical session</i> Peter Gardner Group B; B-406:2506 <i>Continenence &</i> <i>Women's Health</i> <i>practical session</i> BK Tan	12.30-15:00 Clinical visit to Fremantle Hospital Stephanie Fullarton	13:00-15:00 B-574 Hospital communication for health professionals Linda H	13:00-15:00 Visit to PMH, Paediatric Hospital Triston Hunter	12:30-15:00 Lunch with staff of Curtin Uni. Curtin Club

11. 学生アンケート

1. 出発前の準備について

1. 費用の捻出

	n	%
1) 家族が全額負担	8	40
2) 自己資金のみ	2	10
3) 自己資金と家族の支援	8	40
4) その他	2	10

2. 渡豪前の自己学習

	n	%
1) 自己学習をした	9	45
2) 何もしなかった	10	50
3) 無回答	1	5

【自己学習の内容】

- ・日本の医療システム
- ・オーストラリアの医療について
- ・アボリジニの健康問題について
- ・英語・英会話
- ・事前配布されたプリント
- ・日本のPTについて
- ・専門既習内容

3. 研修プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生
オリエンテーション)

	n	%
1) 適切	19	95
2) 不適切	1	5

4. 参加申込み締切日の時期

	n	%
1) 適切	15	75
2) 不適切	5	25

【コメント】

- ・奨学金がもらえるか決定するまでもう少し悩みたかった
- ・5月中、6月

5. 出発前ガイダンスの時期

	n	%
1) 適切	18	90
2) 不適切	2	10

【コメント】

- ・テスト前は避けてほしかった
- ・渡豪近くなったらもう何回かやってほしかった
- ・実習などで参加が難しかったが、個別対応してもらい不便は感じなかった

6. ガイダンスの内容

	n	%
1) 充分	13	65
2) 不充分	6	30

【コメント】

- ・ホームステイに必要なもの
- ・授業内容は参加締め切り前に詳細を教えてほしかった
- ・天候について
- ・授業内容が伝わっていなかった
- ・持ち物、細かい予定

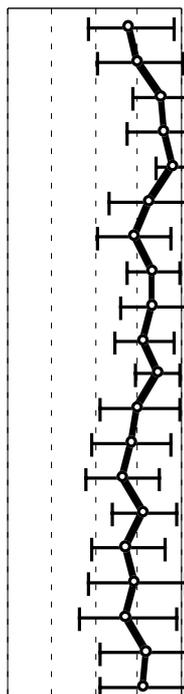
・ホームステイ、3週間のコースに対する満足度

・研修全体に対する評価

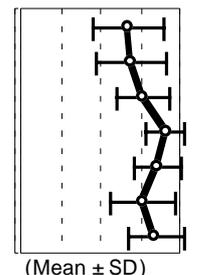
非 非
常 常
に や ち や
不 や ち や
満 不 や 不
 満 満 と 満
 満 も 足 足

非 非
常 や ち や
に や ち や
不 不 と 不
満 満 も 満
 満 足 足

ホームステイ	費用 交通の便 食事 ホストファミリー
英語の講義	全体の満足度 1週目の英語の授業 医療コミュニケーション授業 始業・授業時間
合同講義	授業内容 授業のレベル
専門分野実習別	全体の満足度 始業・授業・見学時間 授業・見学の内容 授業・見学説明のレベル 見学施設
全体の満足度	



研修全体	実施時期
	期間
	コースの構成
	Curtin大学スタッフの対応
	信州大学スタッフの対応
信大教員が授業に参加すること	
全体の評価	



・ 学生アンケート（自由記載分のまとめ）

1 . 参加動機

1) 海外の医療制度を学び、医療現場を見たい

- ・ 日本と違う国の医療について実習を含めて知ることができるから。
- ・ 日本と外国の医療制度の違いを見たかった。

2) オーストラリアの文化を体験したい

- ・ 日本文化とは異なる生活を体験すること。 ・ オーストラリアに行ってみたかったから。
- ・ オーストラリアの文化について学んでみたいと思ったから。

3) 充実した夏休みを過ごしたい

- ・ 日本を出て新しい刺激が欲しかった。 ・ ホームステイをしてみたかった

2 . ホームステイについて

1) 語学力の向上、英語コンプレックスの克服

- ・ 英語のコミュニケーション能力が向上した。 ・ 英語に対する恐怖心がなくなった

2) オーストラリアの生活、文化を体験

- ・ 外国の日常生活に直に触れることができた。 ・ Host Mother とすごく親密になることができた。
- ・ オーストラリアの人々の文化、生活、考え、人柄に直接触れられた。

3) 自己の生き方に対する意識の変化

- ・ どう生きていくかなど、自分の人生観についても考えることができた。
- ・ 人を頼ってばかりではだめ。自分から行動する。

3 . よかったこと・学んだこと

1) 英語力の向上

- ・ 英語に長時間ふれることができてよかった。
- ・ 上手ではないけど英語で話すことができるようになった

2) 他大学の講義を経験する意義、病院・施設見学

- ・ 英語の授業が講義形式ではなくて、能動的な授業だったので、とてもおもしろかった。
- ・ 他の大学の学生に混じって講義を受けることができ、新鮮な体験ができた。
- ・ 実習室がかなり機能的で、先生がたくさん実習を見てくれて、とても実習しやすそう。
- ・ 病院や施設に見学にいけたこと。
- ・ 見学場所が興味深いものばかりで、自分の見識が広がった。

3) 専攻分野や医療に対する視点の広がり、学習意欲の向上

- ・ それぞれの国が抱える問題、システムの違い、共通点など、多くのことを学んだ。
- ・ オーストラリアの医療を知ることで、日本の医療の良いところも知ることができた。
- ・ 日本政府の活動を含む医療システムを深く知らなくては、という意欲をかきたてられた。
- ・ 一番大きな経験は、自分自身の PT に対する視野の広がりを実感できたこと。
- ・ いろいろな意味で刺激を受け、今後の学習に対するモチベーションがとても高まった。

4) オーストラリアの文化を体験、オーストラリアを満喫

- ・ オーストラリアの広い文化に触れることができた。 ・ オーストラリアの文化を楽しめた。
- ・ パーベキューとか他の人の家に行ったり、一人ではできないようなことができた。
- ・ 美味しいものをたくさん食べられた。観光もすごく楽しかった。

5) 考え方・視野の広がり

- ・ 今までの自分の価値観が、すごくちっぽけなものに思えた。
- ・ 自分自身の未熟さを強く感じるようになり、正直かなりしんどかった。
- ・ 今まで中途半端に遣り残したことを仕上げたい。 ・ 強く(タフに)なった気がする。
- ・ 広い視野をもち、様々なことに興味をもつことは、とても大切だと思った。

4 今後の自己課題、将来展望

1) 英語の必要性

- ・ 英語の必要性を痛感した。
- ・ 伝えたいことが伝えられず、もどかしい日々が続いた。英語を勉強する意欲がついた。

2) 専攻分野や医療に関する学習

- ・看護についてもっと勉強しなければ、と思った。
- ・日本に戻ったら、もっといろんな施設を見に行きたい。
- ・留学したい気持ちが強くなった。

3) 進路、将来展望

- ・もう一度進路を良く考えようと思った。
- ・自分がやりたいことを改めて考える良い機会となった。
- ・今後の進路については、選択肢がいくつか増えたように思う。

5 要望

- ・病院見学を増やして。
- ・見学や講義だけでなく、実習や演習をしたい。
- ・実験や実習だけでなく講義も聴きたい。
- ・Curtin の学生ともっと触れ合いたかった。
- ・オーストラリアの自然をもっとみたい。

12. 学生レポートおよび感想文

オーストラリアを体験して

看護学専攻 1年 04M1138C 霜坂 美千子

三週間という、長いようで短い期間、オーストラリアで過ごした日々は私に大きな何かを残してくれた。

まず、オーストラリアの大地の広さに私はとても感動し、心まで広がっていった。小さく細々とした日本から、大きく開けた大地、空に目を向けることで、今まで悩んでいたことが、本当に小さいように思えた。また、こんなにも広い世界で、ある人と出会うということの素晴らしさにも感動した。一期一会とはこのようなことをいうのかもかもしれないと思った。これから看護を実践する中で、人との出会いがたくさんある。それを、ただ何となく過ごしてしまうのではなく、出会ったことの素晴らしさ、意味、その人から得たものを少しずつ考えていけたらと思う。

短い期間ではあったが、様々なオーストラリアの医療にふれることができた。私が特に感動を覚えたものは、Royal Flying Doctors と Princess Margaret Hospital であった。Royal Flying Doctors は、広い台地をもつオーストラリア特有の医療であり、日本では考えられない規模の大きさに驚いてしまった。あんなにも狭く、条件の悪い飛行機の中で、高度な医療が展開されていることに、感動、感心してしまい、ただあっけにとられるばかりであった。また、Princess Margaret Hospital では、子供のための病院だけあって、中にいると病院にいることと蓋れさせるほどカラフルで、かわいらしいものになっていた。日本の子供病院も、一般病棟よりかわいらしいものになっているが、Princess Margaret Hospital では隅から隅まで徹底しているところに驚いた。また病院内に家族のための部屋がたくさんあり、オーストラリアの人々が家族をととても大切にしていることがうかがえた。どちらも、“患者のために”、“患者の立場にたって”というものが、一番の基本にあり、スタッフが皆ニコニコとしていたことが、印象深かった。残念であったことは、私がまだ一年生であるため、日本の医療に対しての知識が無いに等しかったということ。日本とオーストラリアの違いや、同じことが、よくわからなかった。一つだけ感じる事ができたことは、医療は世界共通、患者を第一に考えるということ。これは日本でもオーストラリアでも同じ。看護を実行する人の根底にあるものは、皆同じ気持ちであるのだと思い、感じる事ができて嬉しかった。

ホームステイ先では、見ず知らずの私のことを家族と呼んでくれて、受け入れてくれた。毎日ママたちと過ごす時間が本当に楽しくて、ずっと昔から一緒にいた気分させてくれた。きっとそれは、彼女たちの心の大きさそのものを表しているのだと思う。Jenny、Anne に心から感謝している。海外に第二の家族ができたので、この出会いをこれからも大切にしていきたいと思う。メールの交換や手紙も書いていきたい。そして、彼女たちとの約束。「必

ずもう一度オーストラリアを訪れ、彼女たちに成長した自分の姿を見せること」を必ず実行したいと考えている。

この夏の体験は忘れることのできない、素晴らしいものとなった。これからの私の課題は、今持っているオーストラリアで得た思い、決意を忘れることなく、日本で看護を学んでいくこと。日本で学んだら、オーストラリアではこうだった、ここが違った、ここは同じだったと、考えていきたい。自分から意欲的に看護を学びたいという、今の決意を忘れないように日々過ごしていきたい。そして、オーストラリアの大地のように広い心をいつまでも保っていったらと思う。

Curtin 短期留学プログラムに参加して 専攻科助産学特別専攻 04P3001A 浅野 晶穂

このプログラムに参加する前の私にとって、日本から遠く何千キロも離れたオーストラリアという国は正に異境の地で、文化や価値観も全く違う人々が暮らす国でした。ましてや、ウェストオーストラリア州のパースという町は、聞いたこともなく、まるで宇宙にでも行くかのような心意気で日本を出発しました。そして、このような文化・価値観・医療やその制度の日本との違いを感じる事が、私のこのプログラム参加にあたっての大きな目的の1つでした。

実際パースの地に降り立ち、3週間の Curtin 大学でのプログラムの中で、確かに色々な相違点を感じる事ができました。ヘルスケアシステムにおいては、人々は連邦政府や州の政府に税を払うのですが医療福祉への還元が高いことと同時に税率も高いこと、また、高騰する医療費の不足分の多くがチャリティーでまかなわれているところが驚きであり、日本とは違うように思いました。また、地域の医療もヘルスプロモーションやプライマリーヘルスケアの概念にのっとった体制となっており、コミュニティのナースや助産師が、日本でいう保健師のような役割を病院と連携を取りながら活動していることにも、日本とのシステムの違いを感じました。特に私自身の専門である助産に関しては、自然分娩の場合の助産師の権利の幅広さ(特に、ナートや投薬に関する権利)は、ただ感心するばかりでした。

しかし、そのような、違いは今までの歴史や広大な領土、宗教や、人種的な問題など背景の大きな違いがあるからこそ当たり前のような気がしました。相違点よりむしろ、高齢化に少子化、IVF などの生殖医療の普及といった共通の問題や状況を抱えながら、医療体制がつくられていっているという点で、日本とオーストラリアの医療の共通性を強く感じたのが、自分でも驚きでした。日本の医療もオーストラリアの医療も「人々が、いかに心身ともに健康に、その人らしい一生を過ごせるか」ということを目標にそのための医療体制がつくられており、このように様々な面で医療体制は違うけれども目指しているところは一緒のように思いました。人々の QOL の向上をはかる意図でつくられた施設の充実は日本はオーストラリアに学ぶべきだと思いましたが、逆に、高齢化社会に対応した日本の介護保険制度などは優れた制度なのではないかと思いました。もちろん、オーストラリアには、とても参考にすべきいい医療が在るとは思いますが、逆に日本にも世界に誇れる医療があることを再認識もしました。日本を客観的に眺めることができるいい機会にもなったと思います。日本の中にいるだけでは日本のことは良くわからないということに気付けたように思います。

また、大学の外でも、オーストラリアの文化に触れる機会がたくさんあり、とても興味深かったのですが、やはり、相違点よりは共通点の多さに驚かされました。お世話になったホストファミリーは、65歳の1人暮らしの女性でしたが、孫の誕生を首を長くして待っていたり、毎週欠かさず見るお気に入りのテレビ番組があったり、健康のために水中ウォーキングに通ったりと、まるで、私のおばあちゃんと同じような生活を送っていました。私自身も、

毎日、朝起きて、学校に行き、その後は友達と遊びに行ったり家族とゆっくり過ごす、そんな、生活が日本とまったく変わらなくて、なんだか、パースに来た頃の意気込みが嘘のようでした。こんなに、日本から遠く離れた所に住んでいるはずの人たちなのに、同じように日々の雑多なことに対応しながら、同じようなことに嬉しかったり、悲しかったりしながら、生活しているんだなということがわかって、とにかく、私にとってなんだかほっとするような、嬉しい発見でした。そんなことを感じながらパースで3週間過ごしたころには、ここが海を越えはるばる何千キロも離れた土地であるということを思わず忘れがちになり、まるで地続きで電車ですぐ来ることができるような感覚に陥りました。

このようにして過ごした3週間は本当にあっという間でしたが、日本の文化や医療を客観的に見つめることができたことや人間の共通性を実感できたことは私にとって、このプログラムでの大きな収穫となりました。このような貴重な経験をすることは、めったにできないと思います。私の人生の中で忘れることのできない充実したパースライフを送ることができたことにとっても感謝しています。

カーティン工科大学研修レポート **理学療法学 1年 04m1818A** **三木賢人**

私は今回、8月21日から9月11日、オーストラリアのパースにあるカーティン工科大学（以下カーティン）への研修に参加しました。ホームステイはホストマザーのおかげでとても有意義なものとなりました。ホストマザーは私を本当の家族のように扱ってくれました。私と同じホームステイ先だったアキとバーベキューパーティをしたいと持ちかけたときも快く受け入れてくれました。英語で生活することは慣れてしまえば大変なものではありませんでしたが初めのうちはホストマザーに話しかけるのもとても勇気が必要でした。ホストマザーは家の中でアキと会話するのも英語を話すように言ってきたので、しゃべることでストレス解消する私にとってはかなり辛く感じました。ホストマザーとの生活のなかで特に大変だったことは、日本のことを英語で説明しようとしたことです。「いただきます」や「ごちそうさま」、それに日本の諺を説明するのはとても苦労しました。それでもホストマザーは私の拙い英語を理解してくれたようで通じたときは自分の英語に少し自信がもてました。ピナクルズツアーの計画をたてる為に旅行会社にアキが行ったときも、店員の方はわかりやすい英語で話してくださり私ができるまで説明してくださいました。英語でコミュニケーションをとることに慣れてきたのはこのときぐらいからでした。

パースは広大で美しい自然が広がる地域でした。ロットネスト島に向かう途中や帰りには野生のイルカを見ることができたことは、特に貴重な体験だったと思います。ロットネスト島では自転車ですべて島を散策したり、海岸を歩いたりしました。インド洋はとても美しくマリンスブルー色で日本の海とはまったく異なるものでした。今度オーストラリアに行くときはマリンスポーツのできる夏に行きたいと思いました。ピナクルズツアーに参加し、そこには私の背丈を軽く越える巨大で細長い岩が、何百と砂漠の中にそびえたっていました。砂漠を一望できる展望台に行くと地平線のほうまで岩がそびえたっており、大自然の力を感じずにはいられませんでした。

カーティンでの授業で特に印象深かったものは Motor Examination と Roll play でした。Motor Examination の授業で簡単な動作の診断（例えば医師が患者さんに「私の手を押してください」といって力の具合を評価すること）を英語で教えていただけたことは今までの英語の授業にはないものでとても有意義なものになりました。Roll play は医師役と患者さん役のペアを作って演じるものでみんな真剣にとりくみ英語での症状の訴え方や医師の対応の仕方などを学ぶことができました。

次にオーストラリアの医療について学んだことはオーストラリアも日本と同様に社会の高齢化が問題になってい

ることです。施設での介護をおこなうよりも在宅での医療を勧めている点も、日本と同じですがオーストラリアは子供が成人すると子供は子供の家庭があるので、年をとった親の面倒をみるのは政府の役割だという点が日本とは大きく異なっています。またオーストラリアでは治療費は税金でまかなわれており、公立の病院では無料であることに驚かされました。オーストラリアの医療の問題点は、他にオーストラリアが広すぎてすぐに治療が受けられないことと、アボリジニーの健康状態が良くないことです。前者の問題を解決するために西オーストラリアには Royal Flying Doctor Service (以下 RFDS とする) という組織が存在します。RFDS は医療設備が十分でない僻地で事故や病気になった場合、大きな病院に飛行機で搬送してくれる組織です。西オーストラリアには5つの基地があり、二時間以内のサービスを目標としているそうです。またアボリジニーを対象とした医療活動もおこなっており、定期的に地域診療所を開いたりしているそうです。RFDS も無料であり運営は募金によってまかなわれているそうです。

この研修を通して他文化の中で英語だけで生活をしたことは、自分にとって貴重な経験であったことは間違いありません。またオーストラリアの進んでいる医療制度や分野について知ったことは、これからもっと学んでいくなかで世界に目を向けるための基礎になったと思っています。私は、今回の研修に参加することをひとつの目標として信州大学に入学しました。私は将来、理学療法士として生きるなかで世界の進んでいるところを吸収して、自分の知識を深めるためには英語が必須だと思っています。だからこの研修に参加できてとても良かったです。

カーティン工科大学での海外研修に参加して 検査技術科学2年 03M1220C 篠原 幸

海外に行ってみたいという不純な動機でこのプログラムに参加した私だが、このプログラムに参加して、より自分の進むべき道をしっかり見据えることができるようになったと感じた。

一週目の英会話の授業では、Mark と Linda の二人の先生が教えてくれた。二人ともオーストラリア人だったが、とてもわかりやすく話してくれた。二人の授業は実際の生活や医療の現場で役立つ英語ばかりだった。今まで7年間英語を習ってきたが、日常生活ではほとんど役立たなかった。国際社会に対応できるようになるために英語を勉強するのなら、このような授業を多く取り入れるべきだと感じた。Mark の授業は授業を受けているという気はせず、逆に授業を楽しむことができた。これが日本とオーストラリアの違いのひとつだと感じた。少なくとも、この授業は受けているのではなく参加していた。日本の授業はほとんどが受身の授業で、自ら参加することはほぼなかった。三週目に、学生の実習に混ぜてもらったときも同じことを感じた。Jeff という血液学専門の先生が血算の機械の説明をしているのを、カーティンの学生と一緒に聞いたとき、カーティンの学生は Jeff の話の合間にわからないことをたくさん質問していた。日本のように先生が説明し終わるのを待たせず、わからないことをその場で聞くのはより理解を深めるのに効果的である。ここではそれが当たり前なのだ。この点は日本も見習ったほうが良いと感じた。実習室の充実さに驚いた。各実習室を見せてもらったが、実習をしたのは血液の実習室だった。この実習室にはひとつのテーブルに全て必要な道具がそろっていた。各テーブルの上には高温槽、遠心機などが並べられており、引き出しにはピペット、その下の扉には顕微鏡が入っていた。すぐ近くの棚に吸光度計もあった。とても使いやすい機能的な実習室でうらやましくなった。

三週目に見学した私立の検査センターは今までやったことのないことを経験させてもらえて興味深かった。実際の検査の現場に触れることができ、自分がなろうとしている臨床検査技師とはどういうものかを知ることができた。赤十字では実際に献血中の患者さんも見学させてもらうことができた。ここで驚いたのは、Rh-の人がオーストラ

リアには多いということだ。Rh-のO型の人口のほうがRh+のB型よりも多かった。日本ではRh-の人はほとんどいないので、とても驚いた。ロイヤルパース病院での見学はほぼ検査センターと同じだった。しかし、大きな病院であるため、検査センターよりも機械化が進んでいた。また、日本では輸血用の血液をラベルの色で区別しているが、ここではバーコードで読み取るため色分けはしていなかった。

木曜日に理学療法学専攻の人たちと一緒に訪問したプリンセスマーガレット病院では小児病院の充実さに驚いた。日本では小児科医が足りなく、問題となっているのに対し、ここは子供専門の病院で、さらに子供たちへの配慮がかなりなされていた。病院内にゲームセンターや映画館があり、年齢ごとに階が異なり、病室の内装も年齢に合わせて作ってあった。この病院を見ると、オーストラリアでは子供たちをどれだけ大切にしているかが伝わってきた。日本にもこれほど充実していなくてもいいので、子供病院を見習って作ってほしい。

以上のように、日本とオーストラリアにはお互いに良い点がある。お互いの良い点をお互いが取り入れれば、これからより良い医療サービスや教育が受けられるようになると思う。この機会を通して、オーストラリアの良い点を日本に取り入れるのに協力しようと思う。

オーストラリアはすべてが大きかった。道路も、家も、食べ物も大学も。広い土地でのんびり過ごしているせいか、人々はとても穏やかで、人生を楽しんでいるように思えた。時間がゆったりと過ぎていたので、誰もが余裕を持って行動していた。私のホストマザーのキリーは女手ひとつで三人の子供を育て上げたため、今まで働きすぎたという。これからはホストマザーをしながら、自分の趣味をして過ごしていこうと言っていた。それはとても素敵なことだと思う。キリーはとてもいいホストマザーだった。食事は多すぎず少なすぎず、干渉もし過ぎない。しかし、私たちのことをいつも気にかけてくれていた。夕食時にはとても楽しい話をしてくれた。感謝してもしきれない程、キリーには感謝している。とても楽しい3週間をありがとうございました。

観光で訪れたロットネスト島はとてもきれいな島だった。ただ自転車で周っただけなのに、とても楽しかった。海はテレビの中で見た世界のようにきれいで透き通った青で、砂浜の砂はさらさらでとても白かった。島を一周してもものすごく疲れたけれど、ウェストエンドまで行けて本当に良かったと思う。どこまでも続くインド洋は世界の広さを実感させてくれた。また、断崖の波に削られた跡は神秘的な雰囲気をかもしだしていた。

他にもピナクルズに観光に行った。ピナクルズは自然のすごさを教えてくれた。砂の墓標と言われるが、本当に墓石が並んでいるように思えた。見渡す限り続く岩の列は、言葉にならない自然の素晴らしさを物語っていた。これを見てから、今まで私が自然だと思っていたものはほんの小さなかけらの部分にすぎず、自然は奥深く、自然の前には人間はちっぽけな存在に過ぎないと改めて思った。

私がこのプログラムで学んだことは、授業への参加の仕方、オーストラリアと日本のそれぞれの医療制度の利点、ゆとりのある生活の楽しさ、そして自然の雄大さである。ただ外国に行きたいというちっぽけな動機から、これだけ多くのことを学べた。この経験を無駄にせず、これからの自分の人生にほんの少しでも役立てていきたい。

最後に、引率してくれた先生方、カーティン工科大学のスタッフの皆さん、ホストマザーのキリー、その他私に関わったすべての人にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



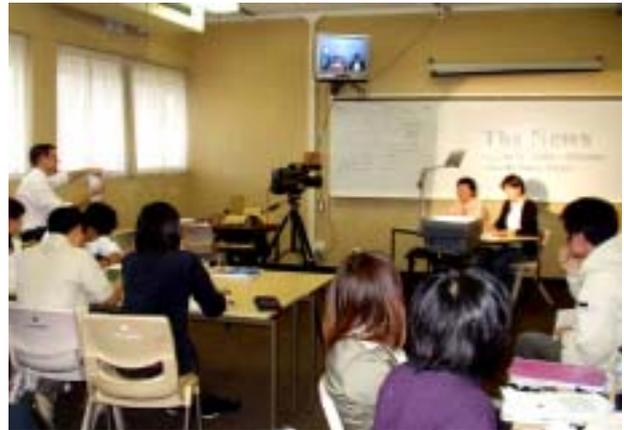
Curtin Q&A Room でオリエンテーション
(今回の研修全般を担当してくれた Caryn、
とても親切でした)



英語授業担当の Mark (学生の人気 No.1)
Home Party にも招待してくれました。



英語授業で診察時の会話練習 (各々がシナリオを考えて
即興で演じます。)



The News: August 31 2004
- Shinshu- Curtin Daily News
学生がキャスター役となり、ニュースをビデオ
テープに収録しました。チョット、緊張 ?

第2週の Health care lectures

実際の経験に基づいた内容やオーストラリアの
保健医療システムなど、Saras, Pam, Jeff, Louise
による保健医療に関連する授業が行われました。

- 1) Community Health Care
- 2) The Australian Health Care System
- 3) Professional Ethics Fraud and Plagiarism
in the Health Sciences
- 4) Health Care Careers : Professional
Structures in Australia



施設見学 / 実習

Royal Flying Doctors Service
飛行機が緊急出動をするため、
緊迫した雰囲気でした。



The Nche (Independent Living Center of WA)
在宅でのリハビリテーションを支援する器具、器材の展示、
使用教育を行っています。学生が、器具の使用体験を行いました。
用途に応じて、いろいろあるんだなあ。



Craigwood Nursing Home で看護師長さんから
説明を受けています。日本との違いがたくさん
あって、いろいろ勉強になりました。



Maternity Home で説明を受けています。
家庭に近い環境で分娩できる施設です。
うらやましい、環境です。



検査技術のオーストラリア学生と血液学実習
すこし緊張しましたが、皆が気さくに話しかけて
助けてくれました。

理学療法のオーストラリア学生と実習。
いい環境での実習に、思わず力が入ってしまいました。

Tea break! お茶より会話?
Body language も交えて、楽しいひとときです。



Rotnest 島を自転車で走破。体力も鍛えねば!



野生のイルカが目の前に。Lucky!



パースシティを望む Kings Park を散策。
素晴らしい景色をバックに、ハイポーズ。



インド洋は余りにも青く、深く、眩しかった!



【編集後記】

本年も無事に Curtin プログラムを終了することができた。例年になく雨が多く、冷え込んだ天気の日が多かったが、季節は着実に春に向かっており、Kings Park も Curtin 工科大学のキャンパスもラベンダーの花盛りだった。緑の芝生に木々が影を落とし、人を恐れない小鳥たちが近寄ってくることもある。学生が帰りたくないというのももったもな、恵まれた環境の中で3週間を過ごすことができた。

本プログラムも4年目を迎え、開始当初にみられた手違いや混乱も大幅に減り、プログラム全体がスムーズに進むようになった。本プログラムが Curtin 大学のコーディネーターや各専攻教員の中に定着してきたのであろうし、本学教員との連携も深まったためであろう。いくつかのハプニングもあり、体調を崩す学生もあったが、大きなトラブルに発展せずに済んだのは、この連携の深まりとそれに伴って様々な人々が暖かく本プログラムを支えてくださったためである。

今年の学生には、恐れずに英語で話しかけたり、質問したりする者が多く、Curtin 工科大学の複数の教員から、明るく積極的な学生だとお褒めの言葉をいただいた。オフタイムの自主企画も盛りだくさんで、学生は短い間に多くのことを経験したようである。それは単に海外の医療事情を知ったり、英語のシャワーを浴びたりしたというにとどまらず、考え方や将来展望にも少なからぬ影響を受けたようである。

最後に、このようなプログラムを背後にあって支え、またご協力いただいた同窓会のみならず、事務職の方々、また保健学科の諸先生方に心から感謝申し上げます。

(文責 柳澤理子)



(Mark の家でホームパーティ；中国やサウジアラビアなどの留学生もいます。)

.....

「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学術交流協定に基づく 平成 16 年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2004 年 10 月 1 日

発行責任者：成沢和子

編集：平成 16 年度夏期海外単位取得プログラム担当チーム

発行：信州大学医学部保健学科 / 信州大学医療技術短期大学部

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

TEL: 0263-37-2356